



平成十七年度

# 夕陽会渡島支部

## 総会・懇親会盛會裡に終了

夕陽会渡島支部副支部長 藤 枝 勝 雄

十七年度より函館市と渡島東部四町村、並びに森町と砂原町の合併に伴って、大規模な渡島支部の改編が行われ、新年度より十一支会での渡島支部が発足いたしました。新たな組織体制の中で、五月十四日(土)ホテル法華クラブ函館を会場に、支部総会・懇親会・新会員歓迎会が盛大に華やかに開催されました。総会では、川合支部長の挨拶に続きご来賓の川島孝夫夕陽会長様より母校の現状と今後の概要について詳しい説明をいただきました。更に十七年度の事業計画等の案件について協議・承認をいただいた後、役員改選に移り川合支部長の再任と幹事長と



して新たに竹内良容大関小学校長を選出し新体制が始動いたしました。続いて大懇親会・新会員歓迎会が開かれました。新会員に十二名を迎え、再編による支部会員の減少にもかかわらず昨年までと同様二百名を超える出席をいただきました。恒例となっている夕陽讃歌の歌と共に祝宴が始まり会員の懇親・交流は元より、新会員の深刺とした自己紹介や大抽選会等大

いなる盛り上がりを見せました。最後には寮歌の大合唱をもって夕陽の絆を確かめ合い、盛会のうちに会を閉じることができました。参会の皆様には感謝致します。

◎ 母校開学の精神を確かめ、夕陽会の原点である親睦の和を深めるとともに教育の振興に寄与する。

### ● 運営方針 ●

- 一、支部、支会の連携強化
  - ① 会員の同窓意識の高揚を図る。
  - ② 会員相互の助け合いを大切にする。
  - ③ 支部と支会、支会相互の連携を密にする。
- ④ 情報活動を活性化する。
- 二、会員の資質向上・援助
  - ① 会員相互の研修活動を促進する。
  - ② 人材の発掘と登用を積極的に進める。
- ③ 新会員(新採用者・渡島管内勤務初経験者)への援助・啓蒙に努める。
- ④ 退職会員への感謝と激励に努める。
- 三、本部及び他支部との連携
  - ① 本部との連携を深め、会の一層の充実・発展を図る。
  - ② 本部事業へ積極的な協力を行う。
  - ③ 他支部との密接な情報交換・連携を図る。
- ④ 本部からの支援を積極的に求める。
- 事業推進方針 ●
- 一、支会訪問
  - ① 各支会の総会・会合には積極的に参加し、支部と支会の連携を図る。
  - ② 会費完納会員には、記念品を贈る。
- 二、情報・資料の提供
  - ① 各支会及び他支部との情報交換に努める。
  - ② 本部との情報交換に努める。
- 三、「夕陽渡島」の発行
  - ① 「夕陽渡島」を発行し、会員の交流を図る。
- 四、研修事業
  - ① 新採用者などに、教育に携わる者としての意識の高揚を図る。
  - ② 研修情報の収集及や研修資料の作成・提供を図る。
  - ③ 会員各自の研修促進と研修実践者への積極的な支援を図る。
- 五、退職会員との連携
  - ① 勇退者への感謝と激励の会を開催する。
  - ② 「渡島支部終身会員」への積極的な勧誘を推進する。
  - ③ 退職者の業績を記録した「勇退者の横顔と足跡」を発行する。
  - ④ 退職者へ記念品を贈る。
- 六、本部事業への協力参加
  - ① 本部主催の各種事業へ積極的な協力と参加を推進する。
  - ② 「本部前納会員」への積極的な勧誘を推進する。
- 七、関係機関との連携
  - ① 各種機関との連携を強化して、事業を推進する。
- 八、その他
  - ① 教頭昇任者・校長採用者、受賞者等へ、祝詞等を贈る。
  - ② 慶弔規定に基づいて、迅速に対応する。

支会だより

保・小・中・高

連携教育の推進



木古内支会長  
(木古内小学校)  
石 黒 一 次

木古内町は昭和六十三年三月の青函トンネル開通に伴い「北の大地の始発駅」として脚光を浴び、早十八年の時が過ぎた。

今日、我が国の経済状況の變化に伴い、本町はとりわけ大きな基幹産業がない状況にある。

町並は目前の津軽海峡と背面の山岳地帯に囲まれ、ゆつたりとした大自然に恵まれている。

現在、本町は行政と住民がともに語りともに行動する「北の大地の福祉都市きこない」の創造を目指し歩みを進めている。

学校教育においては、「ふるさと教育」を大きな柱として、保・小・中・高連携教育の推進を図り、本町の人づくり・町づくりの重責を担っている。

本町では町教委が事務局となつて、町内の私立二保育園、町立三小中学校、道立二高校、それぞれから運営委員を派遣して

校種間連携教育事業「つなげろ」の実践を積み重ねている。

本支会会員はそれらを実行する中心的なパートナーとなつている。現職会員は三十一名で小

浅梯司教育長を筆頭に、木古内小十二名、鶴岡小五名、木古内中十名、木古内高三名である。

また、町内在任会員九名の先輩諸氏には、学校評議員やボランティア教育相談事業等で、温かい指導・支援を賜っている。

十年後早くも七、八年後には、夢の北海道新幹線開通が確定しており、町の息吹が少しずつ勢いを増し始めている。

道南、北海道のみならず全国的な経済不況は共通した課題である。今こそ、家庭・地域・学校が本気になって手を携え、ふるさととの発展に夢を託し、かけがえのない一人一人の子供たちの「自尊の心と生きる力」の育成に鋭意努力したい。

来る七月十五日(金)に、本支会の平成十七年度総会・懇親会を予定している。夜の部の連携もおろそかにしてはならないと支会長として緊張している。

支会だより

北斗市への移行を

目前に控えて!



上磯支会長  
(浜分中学校)  
千 田 俊 幸

我が上磯町は渡島半島南部に

広がる広大な平野を中心とした田園工業都市です。晴れた日には穏やかな函館湾の向こうに函館山が美しく見えます。児童生徒数は道南全体では年々大幅に減少していますが、上磯町は昭和の時代よりは若干減っているものの平成になってからはほとんど減ってはいません。函館市に近い浜分小学校では近年むしろ児童数が増えている状態です。

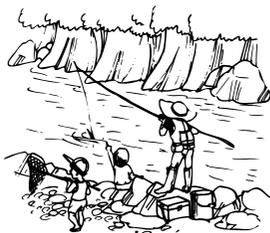
さて、夕陽会上磯支会は十一小中学校で会員数は百三十八名です。高校や教育委員会を含めると百五十五名にもなります。また退職後も上磯町に在住している先輩諸氏も多く、百十一名もおります。

今年度は五月二十七日(金)に「のとや七重浜店」で総会並びに大懇親会を開催しました。

懇親会には田中則夫教育長様始め、渡島支部長の川合正芳校長先生や町内在任の退職会員の皆様方十三名も参加して下さいました。それぞれが旧交を温めている姿を見るにつけ、改めて夕陽会員の結びつきの堅さを感じ入りました。

また、総会においては私千田が今年度の支会長を仰せつかり、先輩諸氏の前で身の引き締まる思いでした。来年二月の大野町との合併を控え、夕陽会上磯支会という名称は本年度で最後となります。今後、次年度へ向けて夕陽会大野支会と具体的な話し合いをしていかなければならないと考えております。い

ずれにしましても、夕陽会上磯支会の名を汚さぬように全力で役目を果たしたいと考えております。



平成17年度

夕陽会渡島支部各支会役員名簿

Table with columns for Branch Name, Branch Chief (Name/Affiliation), Executive (Name/Affiliation), and Executive (Name/Affiliation). Rows include branches like 松前, 福島, 知内, etc.

平成17年度

夕陽会渡島支部役員名簿

Table with columns for Position, Name, and Affiliation. Lists roles like 顧問, 支部長, 副支部長, etc.

夕陽会渡島支部事務局
〒049-3121
八雲町上八雲296-1
大関小学校内
竹内良容
電話 01376-2-3663
FAX 01376-2-4496

平成17年度会務報告 (中間)

4月1日 採用校長、昇任教頭等祝詞発送
5月14日 八雲支会総会・懇親会
6月7日 第四回本部役員会

31日 第六回本部役員並びに顧問・参与会
27日 第五回本部役員会
25日 軒駅前支店
20日 渡島教育局長に挨拶
18日 懇親会・新会員歓迎会
16日 五稜支会総会・懇親会
15日 蛭子芳秀先生
9日 紺井健一郎校長

印刷/株島本印刷